

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	履修学年	高校	1年	1～4	組		
単位数	4単位	使用教科書 補助教材等	NEXT数学Ⅱ, NEXT数学B CONNECT数学Ⅱ+B							
担当者	1L1(中田) 1L2(星野・渡辺) 1L3(永野・竹田) 1L4(山崎・渡辺)									
学習目標	数学Ⅱ「図形と方程式」「三角関数」「指数関数と対数関数」「微分法と積分法」・数学B「統計的な推測」の基本事項を身につけ、次年度数学ⅢCを学習する体力をつける。また、数学の解答の書き方を学び、答えにたどり着く過程をしっかりと記述できるようにする。適宜、既習済みである数学ⅠAの復習を取り入れ、模試対策をおこなう。									
評価方法										
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	教科書の定義、定理、公式を理解し、それを活用して問題が解けるか。		論理的に記述をすることができるか。定理などを活用するだけでは解けない問題に取り組むことができるか。			普段の学習態度などが整っていて、学習内容の定着が測れているか。自分の弱点などを把握し、それを克服するように努力をしているか。				
各観点の授業内 評価方法等	小テスト、定期考査の得点から算出する。		定期考査、到達度確認テストの得点から算出する。			プリントの課題などから評価する。				
学期末の 各観点比率(%)	約50%		約30%			約20%				
授業計画										
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等						時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	【数学Ⅱ】第3章 図形と方程式 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 4. 円の方程式 5. 円と直線 7. 2つの円						18	1 学期 中間 考査	
	5									
	6	【数学Ⅱ】第3章 図形と方程式 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域 【数学Ⅱ】第4章 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数の性質 4. 三角関数のグラフ 5. 三角関数の応用						22	1 学期 期末 考査	
	7									
8										
2	9	【数学Ⅱ】第4章 三角関数 6. 加法定理 7. 加法定理の応用 【数学Ⅱ】第5章 指数関数と対数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数						18	2 学期 中間 考査	第1 回 到達 度 確認 テ ス ト
	10									
	11	【数学Ⅱ】第5章 指数関数と対数関数 5. 常用関数 【数学Ⅱ】第6章 微分法と積分法 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用						23	2 学期 期末 考査	
	12	(5. 関数の増減・グラフの応用)								
								4		
3	1	【数学Ⅱ】第6章 微分法と積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積 【数学B】第2章 統計的な推測 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布						26	学 年 末 考 査	第2 回 到達 度 確認 テ ス ト
	2									
	3									

教科名	数学	科目名	数学B	履修学年	中学・ 高校	1 年	1~4	組		
単位数	2 単位	使用教科書 補助教材等	教科書： 数研出版 NEXT数学Ⅱ, NEXT数学B 問題集： 数研出版 CONNECT数学Ⅱ+B+C							
担当者	高橋, 相澤, 永野									
学習目標	数学Ⅱ「式と証明」「複素数と方程式」、数学B「数列」の基本事項を身につけ、次年度数学ⅢCを学習する体力をつける。 数学の解答の書き方を学び、答えにたどり着く過程をしっかりと記述できるようにする。									
評価方法										
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	・教科書の定義・定理・公式を理解し、それらを活用して問題が解けるか。		・公式をそのまま利用するだけでは解けないような問題に果敢に挑戦できるか。 ・途中過程などを含めて、数学の答えを記述できているか。			・自宅学習にしっかりと取り組み、学習内容の定着を図れているか。 ・自分の課題などを把握し、どのように改善していくかを自分で考えられるか。				
各観点の授業内 評価方法等	主に定期考査の得点で評価する。2, 3 学期は到達度確認テストの得点も考慮する。また、小テストへの取り組みも考慮する。					主に問題集ノート提出やプリント課題の提出によって評価する。				
学期末の 各観点比率(%)	約80%					約20%				
授業計画										
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等						時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	【数学Ⅱ】第1章 式と証明 第1節 式の計算						9	1 学期 中間 考査	
	5	第2節 等式・不等式の証明								
	6	【数学Ⅱ】第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解						10	1 学期 期末 考査	
	7									
	8									
2	9	3. 解と係数の関係 第2節 高次方程式						9	2 学期 中間 考査	第1回 到達 度 確 認 テ ス ト
	10	【数学B】第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 6. 和の記号Σ								
	11							11	2 学期 期末 考査	
	12	7. 階差数列								
3	1	8. いろいろな数列の和 第3節 漸化式と数学的帰納法						10	学 年 末 考 査	第2回 到達 度 確 認 テ ス ト
	2									
	3									

教科名	数学	科目名	数学 I	履修学年	中学・ 高校	1 年	5, 6, 7 組		
単位数	4 単位	使用教科書 補助教材等	教科書: 数研出版 NEXT数学 I、NEXT数学 II 問題集: 数研出版 CONNECT数学 I + A, CONNECT数学 II + B						
担当者	高橋, 寺町								
学習目標	高校数学の最も基本となる数学 I の基本問題を定着させ、来年以降の数学の学習をスムーズに進められるようにする。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	・教科書の定義・定理・公式を理解し、それらを活用して問題が解けるか。		・公式をそのまま利用するだけでは解けないような問題に果敢に挑戦できるか。 ・途中過程などを含めて、数学の答えを記述できているか。		・自宅学習にしっかりと取り組み、学習内容の定着を図れているか。 ・自分の課題などを把握し、どのように改善していくかを自分で考えられるか。				
各観点の授業内 評価方法等	主に定期考査の得点で評価する。2, 3 学期は到達度確認テストの得点も考慮する。また、小テストへの取り組みも考慮する。				主に問題集ノート提出やプリント課題の提出によって評価する。				
学期末の 各観点比率(%)	約80%				約20%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分 1	評価区分 2
1	4	【数学 I】第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式					15	1 学期 中間 考査	
	5	【数学 I】第3章 2次関数							
	6	第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式					20	1 学期 期末 考査	
	7								
	8								
2	9	【数学 I】第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用					18	2 学期 中間 考査	第1 回 到達 度 確 認 テ ス ト
	10	【数学 I】第5章 データの分析							
	11	【数学 II】第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明					22	2 学期 期末 考査	
	12								
3	1	【数学 II】第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式					18	学 年 末 考 査	第2 回 到達 度 確 認 テ ス ト
	2								
	3								

教科名	数学	科目名	数学A	履修学年	中学・ 高校	1 年	5, 6, 7 組		
単位数	2 単位	使用教科書 補助教材等	教科書: 数研出版 NEXT数学 I、NEXT数学A 問題集: 数研出版 CONNECT数学 I + A						
担当者	高橋, 赤岩								
学習目標	「集合と命題」「場合の数と確率」「図形の性質」と思考力を要する分野の学習を通して、難しい問題にもあきらめずに考えて解決していく力を養う。								
評価方法									
評価観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢					
評価規準	・教科書の定義・定理・公式を理解し、それらを活用して問題が解けるか。	・公式をそのまま利用するだけでは解けないような問題に果敢に挑戦できるか。 ・途中過程などを含めて、数学の答えを記述できているか。		・自宅学習にしっかりと取り組み、学習内容の定着を図れているか。 ・自分の課題などを把握し、どのように改善していくかを自分で考えられるか。					
各観点の授業内 評価方法等	主に定期考査の得点で評価する。2, 3 学期は到達度確認テストの得点も考慮する。また、小テストへの取り組みも考慮する。			主に問題集ノート提出やプリント課題の提出によって評価する。					
学期末の 各観点比率(%)	約80%			約20%					
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分 1	評価区分 2
1	4	【数学I】第2章 集合と命題					9	1 学期 中間 考査	
	5	【数学A】第1章 場合の数と確率							
	6	第1節 場合の数					11	1 学期 期末 考査	
	7								
	8								
2	9	【数学A】第1章 場合の数と確率 第2節 確率					9	2 学期 中間 考査	第1回 到達度 確認 テスト
	10	【数学A】第2章 図形の性質							
	11	第1節 平面図形 第2節 空間図形					11	2 学期 期末 考査	
	12								
3	1	【数学A】第3章 数学と人間の活動					12	学 年 末 考 査	第2回 到達度 確認 テスト
	2								
	3								